

第2回 Monthly Journal Club on Hand Surgery 抄録

日時：平成25年4月29日(月・祝) 8:30時～

場所：名古屋大学附属病院病棟8階大会議室

プログラム

8:30～8:35 開会のあいさつ 平田仁教授

8:35～9:50 抄読会 第1部

座長：名古屋大学附属病院 手の外科 山本美知郎先生

1) Medium-term results of arthroscopic debridement and capsulectomy for the treatment of elbow osteoarthritis

安城更生病院 整形外科 丹羽智史先生

2) Ganglions of the hand and wrist determinants of treatment choice

名古屋大学附属病院 手の外科 加藤宗一先生

3) Osteology of the coronoid process with clinical correlation to coronoid fractures in terrible triad injuries

蒲郡市民病院 整形外科 中川泰伸先生

4) Distal humeral coronal plane fractures management, complications and outcome

トヨタ記念病院 整形外科 赤根真央先生

5) The first 100 elbow arthroscopies of one surgeon analysis of complications

安城更生病院 整形外科 能登公俊先生

9:50～10:05 症例検討①

「当院で行ったキーンベック病に対する血管柄付豆状骨移植術の4例」

当院では平成23年11月～25年4月の間に症状の軽快しないキーンベック病

(Lichtman分類でstage III以上) 4症例(男2例 女2例)に対して血管柄付豆状骨移植術をおこなった。平成25年4月に行った72歳男性(stage IV)はFPL断裂, 手根管症候群を合併していた。(まだ経過1か月も経たないためfollow upはできず。)

平成23年12月に行った44歳男性(stage IIIb)は約1年半前にstage IIの段階で症状が

続いたため橈骨短縮術を行ったが増悪した1例である。全4例(経過は3例)の wrist pain, grip strength, ROM. Xp 所見 (ulnar variance, CHR, Stahli's index など) をもとに症例を報告する。

鈴鹿回生病院 整形外科 武田真輔先生

10:05~10:20 症例検討②

「難治性の手関節背側滑膜炎 - 症例相談 -」

症例は34歳男性。10年前と5年前に他院にて2度の右手関節ガングリオン切除施行されたが、再度腫脹が出現し1/13 当院紹介。初回手術では、伸筋腱周囲の滑膜炎を認め、EDC(Ⅲ)の不全断裂を認めた。以降も2度滑膜切除・デブリドマンをおこなったが、滲出液の貯留が持続している。滑膜炎の原因および今後の治療法についてご検討お願いします。

安城更生病院 整形外科 丹羽智史先生

10:20~10:30 休憩

10:30~11:45 抄読会 第2部

座長：名古屋大学附属病院 手の外科 新井哲也先生

6) Arthroscopic elbow surgery, is it safe?

東海病院 整形外科 川本 祐也 先生

7) A retrospective cohort study of displaced segmental radial head fractures is 2 mm of articular displacement an indication for surgery

中日病院 整形外科 新海宏明先生

8) What's New in Hand Surgery?

名古屋大学手の外科 大学院 原龍哉先生

9) Premenopausal Women with a Distal Radial Fracture Have Deteriorated Trabecular Bone Density and Morphology Compared with Controls without a Fracture

市立四日市病院 整形外科 大山慎太郎先生

10) The relationship between displacement and clinical outcome after distal radius (Colles') fracture

安城更生病院 整形外科 三竹辰徳先生

11) Dorsal scapholunate ligament injury a classification of clinical forms

名古屋大学手の外科 大学院 米田英正先生

11:45~12:00 症例検討③

「伸筋腱損傷に正中神経損傷を合併した1例 - 症例相談 -」

患者は25歳男性。2013/2/5に酔ってガラス戸を殴り受傷。同日他院救急外来受診し、示指～小指EDC、ECRB、ECU、APLの腱縫合に加え、筋腹レベルでBR、FCR、PTを縫合された。術後正中神経障害が確認され、受傷後2ヵ月で当院紹介となった。

静岡済生会総合病院 整形外科 藤原祐樹先生

12:00~12:05 閉会のあいさつ 平田仁教授

終了